

CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋建築環境性能評価システムマニュアル2016 | 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)名古屋岩塚物流センター新築工事	階数	地上4F
建設地	名古屋市中村区岩塚町字高道1 他10筆	構造	S造
用途地域	準工業地域、準防火地域	平均居住人員	1,500 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,650 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年7月 予定	評価の実施日	2021年11月18日
敷地面積	157,042 m ²	作成者	
建築面積	89,037 m ²	確認日	
延床面積	352,903 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

= BEE3.3

★:S:★★★★★ A:★★★★★ B+:★★★★ B-:★★★ C:★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.7

Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.5

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.9

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 4.1

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.7

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.8

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.8

3 設計上の配慮事項		
総合	施設利用者の利便性および近隣住民・環境にやさしい施設づくりに配慮。	
その他		
Q1 室内環境	対象外	
Q2 サービス性能	<ul style="list-style-type: none"> 階高6.7m以上を確保し、空間形状・自由度に配慮。 更新性がよく、信頼性の高い設備の採用。 	Q3 室外環境(敷地内) <ul style="list-style-type: none"> 敷地内緑化による良好な景観の形成。 防犯性に配慮した室外環境。
LR1 エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> 年間エネルギー消費量の目標を設定し、自然エネルギーの採用など効率化を図る。 	LR2 資源・マテリアル <ul style="list-style-type: none"> 省水型機器・雨水利用システム・リサイクル材の採用による環境・資源への配慮。
		LR3 敷地外環境 <ul style="list-style-type: none"> 周辺地域に対する公害に配慮した計画と対策の実施。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)名古屋岩塚物流センター新築工事

- 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル2
- 評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目	評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策			4.5
LR1 エネルギー	4.7	0.4	
LR3.1 地球温暖化への配慮	4.2	0.1	
LR3.2.2 温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
2. 自然共生			2.9
Q3.1 生物環境の保全と創出	3.0	0.171428571	
Q3.3.1 地域性への配慮、快適性の向上	無	0.017142857	
Q3.2 まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2 敷地内温熱環境の向上	3.0	0.085714286	
3. 循環型社会			3.8
LR2.1 水資源保護	3.8	0.06	
LR2.2 非再生性資源の使用量削減	3.8	0.18	
LR3.2.3 地域インフラへの負荷抑制 ※2	4.0	0.01875	

結果

1. 温暖化対策	評価点 = 4.5
2. 自然共生	評価点 = 2.9
3. 循環型社会	評価点 = 3.8

重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1) 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。